

魚類季節等に関する覚書

藤 田 親 男

Notes on the Bioclimatic Laws

Tikao HUZITA

1. 魚類の洄游は、動物の季節的移動の内、最もよく知られたものの一つで、季節現象を取扱った成書¹⁾にも記載されており、又仙崎等²⁾については、初漁日とそれより某日以前との水温との相関も計算され、回帰直線も提出されている。しかし、現場では、「シビの多い年は、イワシが多い」などと、それぞれの場所において、それぞれの俚言が云いつたえられている。さて、農業の方では、豊凶予報の観点から、多数の天気俚言が集められ³⁾、之は、気象学の進歩した今日でも、一地方の短期の天気を予察するのに手助けとなり⁴⁾、季節予想の研究をすすめる手がかりとなつて⁵⁾いるにもかかわらず、漁業の方では、「目に青葉、山時鳥初松魚」の句など若干が集められている⁶⁾外、まとまつたものが見あたらないので、筆者が聞知したものを次にかかげる。各項の中で、人名は集めた人であり、地名は集めた場所である。尚〔A〕〔B〕……等は後に記する分類である。

(1) イワシ——梅の蕾のふくらむ頃から若葉が出る頃までが盛漁期で、桃が散り、櫻の頃に、漁は終る。——上村嗣雄：指宿郡川尻——〔B〕

(2) ハツサコ、イツシヤク——この魚の旬は、3～4月で、この頃には、ヒトヘグサ等を食しているから、美味である。8月頃の日照りが続くと餌付きが悪くなる。土用の日照りには、魚は逆立ちしているからだ。——竹元勇：姶良郡新島（燃島）附近——〔C〕、〔E〕

(3) バカイカ——突風が来る前には、たいがい、バカイカが非常によくつれる様になる。——上蘭芳孝：串木野市——〔B〕

(4) 鯛——麦刈りも間近にせまつた頃が、盛漁期で、4月末頃から、そろそろ鯛延縄が始められる。——〔B〕

(5) フグ——初期は2月で、盛漁期は、櫻の満開時である。——〔B〕

(6) グチ——秋が漁期で、甘藷の掘込みと同時である。——〔B〕

(7) 太刀魚——秋から冬にかけてとれる。——〔E〕

1) 中原孫吉：日本の動物季節，34，91頁。（朝日新選書），東光治：生物暦，（人文書院）

2) 宇田道隆：水産試験場報告第7号（昭11），44頁。

3) 全国学農聯盟：全国天気予知，（学習社）

4) 例へば，山本義一：気象学概論，195頁；岡田武松：気象学通論，234頁；大谷東平，高橋浩一郎：天気予報論，2頁；大谷東平：天気と天気予報，6頁。（科学新書）

5) 高橋浩一郎：長期予報，26頁。

6) 中原孫吉：前掲1)にかゝりてある。同著者の季節現象（農業集書）には、洄游魚の漁期等すべて除外してある。84頁。鱈漁については、三重水試時報168号（1951年8月），6頁。

(8) 章魚——梅雨時から、旧の盆までとれる。——〔E〕

(9) 烏賊——フグと大体同期で、フグの飼として使用する。金フグは、旧の盆以後とれる。——〔E〕

以上(4)~(9): 伊藤正利: 熊本縣有明海。

(10) シビがとれる年は、イワシがとれる。——串木野市。——〔D〕

(11) サバ——百合の蕾のほころぶ頃はサバがつけ始める。——佐多岬——〔B〕

(12) 飛魚——百合の蕾のほころぶ頃には、飛魚がつけ始める。——屋久島——〔B〕

以上(10)~(12): 田ノ上豊隆。

(13) ニシン——西寄りの風のときには、漁がよい。——高橋淳雄: 羽幌其の他——〔C〕

(14) 時化の前後には、漁が多い。——〔C〕

(15) 閏月のある年は漁期がおくれ、又漁が少い。——関口寿之助——〔A〕

これを通覧するに、漁期又は漁の豊凶の予想をなすのに、

〔A〕 天象に関係つけたもの。(15)。

〔B〕 動物又は、植物の季節現象に関係づけたもの…(1)(2)(4)(5)(6)(11)(12)。

〔C〕 気象により漁況を予知するもの。(3)(13)(14)。

〔D〕 或る魚種の漁況より他種の漁況を予想するもの(10)

〔E〕 一般的に漁期又は洄游をつたえたもの…(2)(7)(8)(9)

の5種類に分類出来る。

(14)の如く気象と漁況との関連を調べたものは、枚挙にいとまないが、之より更に一歩進んだものとして、(13)については、有意性の検定が行われて、俚言の信頼性がたしかめられ⁷⁾ている。天象に関係づけた(15)について、筆者は前号に発表した⁸⁾。以上のべたような俚言を更に多く集め、一つ一つに科学的な検討を加える事は、天気俚言の或るものが今日でも、充分科学性のある事と対比するならば、決して無意味ではないであらう。我々は、ただ單に、鹿児島附近にとどまらず、広くこの様な資料を全国的に集めたいと思つている。

2. 閏月の有無と季節の遅速、漁の豊凶については、さきに有意性の検定を行い、相関があるとは云いきれないと述べた⁸⁾。

これは、人々が、閏月の有る年と無い年とを綿密に比較するという前提のもとに、結論づけられるものである。今仮りに、閏月のあつた年だけについて、 χ^2 -検定を行つてみると、次表の如く、 χ^2 は何れも、3.841より小さいから、有意でなく、従つて、季節の遅速も、漁の豊凶も半々であり、何れが多いとも云いがたい。それ故、通常

	おくれ	速い	計	χ^2
季節	16	9	25	1.96

漁獲	-	+	計	χ^2
全漁獲量	8	11	19	0.474
ブリ	8	11	19	0.474
タイ	9	10	19	0.0526
アジ	11	8	19	0.474
サバ	6	13	19	2.58
イワシ				

7) 高橋淳雄: 鹿水専研究報告 第1巻 第1号(昭25), 34頁。

8) 藤田親男: 同上, 1頁。

は、季節のおくれのあつた場合に、閏月があつたときには、よく俚言が合致していると記憶し、そうでない時には、忘却すると考えざるを得ない。

最後に、俚言を提供していただいた上記の人々に深く謝意を表する次第である。

(27-2-15).

R é s u m é

In this note, several bioclimatic laws regarding fishes are collected. The laws are classified in five divisions.